

律令集落の崩壊

平安時代前半の9世紀前半までは、市内の集落数は少しずつ増加し、住居の数も増えていきましたが、9世紀後半になると、各集落とも住居の数が減り始め、やがて集落自体が次々と姿を消していきました。そして10世紀中ごろまでには、市内のほとんどの集落が姿を消してしまいました。これは本市に限ったことではなく、県内各地に共通する現象です。いったい何が起こったのでしょうか。

大化の改新に始まる律令国家の建設は、奈良時代に隆盛を迎えましたが、奈良時代末、平安時代初期にはほころびが目立つようになりました。律令体制下で人々は、重い税負担に苦しみ、農業生産性が低いこともあって、ちよつとした災害で経営が行き詰まり、田畑を手放して生活苦に陥っていききました。そうした中で宝亀5年(774)弘仁2年(811)の38年間に渡って対蝦夷戦争の人的・物的負担が課され、県内の農村社会は疲弊が進み、社会不安と治安の悪化を招いていきました。それに追い討ちをかけ

るように弘仁9年(818)に関東地方を未曾有の大地震が襲いました。この弘仁地震での県内の被害は大きく、『類聚国史』には、「山が崩れ谷を数里にわたって埋めた。圧死した人々がどれほどいたか、計り知れない。」とその被害状況が記されています。この地震の市内での震度は、震度5弱と推測されており、白川戸の柳坪遺跡などいくつかの遺跡で地震で生じた大きな地割れが確認されています。



柳坪遺跡の相模・武蔵地震で被災した住居跡 (平成3年撮影)

元慶2年(878)にも相模・武蔵地震が起こり、『日本三代実録』に「相模国、武蔵国ではすべての建物が壊れた。百姓の圧死多数。」と記されているように、県内は再び大きな被害を受けました。

加えて東北地方から強制移住させられた俘囚が上総国(千葉県)で反乱を起こし、群盗も横行するようになり、関東地方の治安は悪化の一途をたどっていききました。こうした状況から人々は集落を捨てて離散し、律令体制下の集落は急速に衰退・解体していったのではないかと考えられます。(文化財保護課 中島洋一)

こせに ちゃんが 行く! with フラベス 福祉施設編

かがやきホーム (運営:社会福祉法人かがやきの会)

今日は「かがやきホーム」に行ってきたよ。かがやきホームは平成27年4月に「かがやき共同作業所」で働く仲間たちの家としてオープンしたんだ。

定員は8人で、現在は7人が入居。一人分は、仲間たちが将来の備えとして宿泊の体験ができるように空けているんだって。入居者は月曜日から木曜日の日中、かがやき共同作業所で働いた後、夜はホームで一緒に生活しているよ。金曜日から日曜日は家で家族と過ごしているんだって。

入居者もスタッフも生き生きとして笑顔が印象的なのがやきホーム。家庭的な優しい雰囲気伝わってくる施設でした。

【住所】南河原611-1 【電話番号】578-8460



このコーナーで紹介する施設を募集していますので、希望される場合は広報広聴課までご連絡ください。

今月の表紙

11月29日、中央公民館創作室で彩irodori書家美蓮さんによるアート書道体験講座が行われました。テーマはお正月。参加者は、思い思いに干支などにちなんだ作品を制作し、アート書道を楽しんでいました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をCD-Rに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい 植物油インキ

市報ぎょうだは再生紙を使用しています